

|                    |  |  |        |
|--------------------|--|--|--------|
| 開講年度               | 令和 8 年度  | 開講課程   | 博士後期課程 |
| 授業名                | 総合医療医学特別研究   |  |        |
| 開講キャンパス            | 紀三井寺   | 教室   | 各研究室   |
| 科目区分               | 特別科目   | 配当年次   | 1～3年次  |
| 必修・選択の別            | 選択   | 単位   | 10単位   |
| 対象学生               | —  | 使用言語   | 日本語    |
| キーワード              | (放射線医学) 放射線治療<br>(リハビリテーション医学) リハビリテーション医学、運動療法、理学療法、作業療法、言語聴覚療法<br>(救急・集中治療医学) メディカルコントロール、救急医療システム<br>(麻酔科学) 周術期   |  |        |
| 担当教員<br>(下線：科目責任者) | 医  | (放射線医学) 教授 土井啓至、准教授 生駒 顕<br>(リハビリテーション医学) 教授 幸田 剣、講師 坂野元彦<br>(救急・集中治療医学) 教授 井上茂亮、准教授 上田健太郎、講師 米満尚史、講師 宮本恭兵<br>(麻酔科学) 教授 川股知之、准教授 時永泰行、准教授 神田浩嗣 |        |
|                    | 薬  |  |        |
| 授業の概要              | 放射線医学、リハビリテーション医学、救急・集中治療医学、麻酔科学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える高度先進医療・地域保健医療の課題解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。                 |  |        |
| 到達目標               | (放射線医学)<br>放射線治療に関する論文作成を行う。<br><br>(リハビリテーション医学)<br>リハビリテーション医学・医療に関する研究の実践ができる。<br><br>(救急・集中治療医学)<br>救急医療システムを研究し、日本の地域に適切な救急医療システムを提案できる。これからのメディカルコントロールのあり方について考えることができる。<br><br>(麻酔科学)<br>周術期医療に関する研究の実践ができる。 |  |        |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| <p>授業計画</p>                     | <p>(放射線医学)<br/>放射線治療を行った前立腺癌や子宮頸癌の症例を後方視的に解析し、学会発表や論文作成の指導を行う。(土井啓至/生駒 顕)</p> <p>(リハビリテーション医学)<br/>リハビリテーション医学・医療に関する研究の立案と遂行及び学会発表や博士論文作成の指導を行う。(幸田 剣/坂野元彦)</p> <p>(救急・集中治療医学)<br/>より良い救急医療体制を構築するために必要な救急医療の質的評価項目を探索し、実臨床に反映するための仕組み作りに関する研究指導を行う。メディカルコントロールの普及と教育に関連する論文作成を指導する。(井上茂亮/上田健太郎/米満尚史/宮本恭兵)</p> <p>(麻酔科学)<br/>周術期分野において博士論文作成の指導を行う。研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、研究成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。(川股知之/時永泰行/神田浩嗣)</p> |
| <p>授業の方法・形態</p>                 | <p>演習を中心とする。</p>   |
| <p>使用するメディア</p>                 | <p>パワーポイント等によるスライド資料を使用する。</p>   |
| <p>成績評価の基準</p>                  | <p>研究への取組100% (研究課題の設定内容、研究の遂行状況) によりS (90点以上)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。</p>  |
| <p>授業時間外の学修に関する指示</p>           | <p>教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。</p>  |
| <p>オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)</p> | <p>担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。</p>   |
| <p>教科書・参考書</p>                  | <p>(放射線医学) 特に指定しない。</p> <p>(リハビリテーション医学)<br/>【参考書】 「リハビリテーション医学・医療コアテキスト第2版」<br/>監修：一般社団法人 日本リハビリテーション医学教育推進機構<br/>公益社団法人 日本リハビリテーション医学会<br/>出版社：医学書院<br/>「総合力がつくリハビリテーション医学・医療テキスト」<br/>総編集：久保 俊一、田島 文博<br/>出版社：日本リハビリテーション医学教育推進機構</p> <p>(救急・集中治療医学)<br/>【参考書】 「救急医療におけるメディカルコントロール」<br/>監修：日本救急医学会メディカルコントロール体制検討委員会、日本臨床救急医学会メディカルコントロール検討委員会<br/>出版社：へるす出版</p> <p>(麻酔科学) 特に指定しない。</p>  |